

いのち 命ってなんだろう



子どもが生まれてきた日の事を覚えていますか。
 待ち望んでようやく会えた時の喜びを、子どもに伝えたことがありますか。
 日頃「生きていること」について、特別意識せず生活している私たちですが、最近の新聞やテレビを見ていると、大切な子どもたちの命が守られていないように感じられるニュースをよく目にします。
 橋本市では保健師、助産師が中心になって、市内の小、中学校を対象に行う「いのちを育む授業」^{はく}を始めました。
 子どもを守ることは大人の責任ですが、子どもたち自身にも、**自分の良いところも悪いところも全部、自分は自分であっていいんだという気持ち**で成長してほしい、その思いがこの授業を通じて子どもたちに伝えることができたらと願っています。
 今回は市内の小学4年生に向けて行われた授業の様子を紹介します。

いのちの旅に出かけよう！ ～いのちを育む授業～



「あなたにとって一番大切なものは？」と子どもたちに問いかけると、「家族」「友達」「お金」「ゲーム」など、さまざまな答えが返ってきます。でも本当に一番大切なものは「いのち」ですよね。



赤ちゃんを抱っこしてみよう。

本当の赤ちゃんと同じ大きさ、同じ体重の人形を抱っこしました。まだお腹の中にいる40日めの胎児から、もうすぐ生まれる10ヶ月めの赤ちゃんまで。上手に抱っこできたかな。



心臓の音を聞いてみよう。

ドクンドクン。聴診器で自分の心臓の音、友達の心臓の音を聞いてみました。人によって音の早さが少し違うね。赤ちゃんの心臓はどんな早さだったかな？



誕生の疑似体験をしてみよう。

お母さんのお腹(子宮)の模型の中に入って、実際に生まれる体験をしました。

お腹の中はどんな感じだったかな？ 生まれてきた時の気持ちはどうだった？ こんな風にへその緒でお母さんにつながっていたんだね。

たったひとつの“いのち”

“いのち”の誕生は、奇跡です。誰もが**あり得ない**と思えるほどの、わずかな可能性の中から生まれてきました。最初は砂粒より小さかった**いのち**が、お腹の中で10か月間がんばり続け、狭い産道をくぐり抜けて、この世に誕生しました。たくましく生きる力がなければできないことです。

ひとりひとりの顔が違うように、みんな生まれ方も育ち方も違います。でも、どの子どもこの子ども**「世界でたったひとつの大切な宝物」**です。

“いのち”を大切にするにはどうしたらいいでしょうか。自分を大切にすること、自分を好きになることです。自分を大切にできる人は、きっと他の人も大切にできます。

一度なくなったら二度と元に戻らない**“いのち”**ですから。

生まれてきてくれて
ありがとう！



生きているってすばらしい！

生まれてくることはすばらしいこと、生きていることはすばらしいこと。**あなたがいてくれてうれいんだよ**と子どもたちに伝えてあげてください。これからの思春期にむけてもう一度、“いのち”が生まれてきた日のことを振り返って、あの日の喜びを親子で話し合ってもらいたいですね。

子育て

はっぴい あどばいす

支援チーム員「ちょっとちゃん」



生まれた(〇) 笑った(〇) 食べた(〇) 歩いた(〇) 話した(〇)(〇)(〇)

子育ては長〜いので、どこかで(〇)→(-)になったりします。最初の最初からがんばらねばと緊張してコチコチ(-)だったのは私です。大きくなるにつれ、自分の子なのになんか気が合えん(-)って思っている方もいらっしゃるかも。その正直さに🌸です。人間の気持ちはすごく複雑です。自分の心の奥の思いに気づくことから次への一歩が始まります。

そして、そして、そんなあなたも、こんな私も大丈夫です。いってらっしゃいと背中にタッチ。おかえりと握手。お買い物やお散歩には手をつなぐチャンスがいっぱい。ムギュッとくっついてTVを見る。頭をくっつけて一冊の絵本を読む…そう👉形から入るんです。ラブラブの形をつくれれば、不思議、自然にほんわか気持ちが出てきますよ。

いっぱいくっついてください。理屈なしのふれあいをスタートしましょ。

